

一般社団法人 日本医療薬学会  
平成 24 年度第 6 回定例理事会 議事録

一．開催日時：平成 24 年 12 月 20 日(木) 14 時 ～ 17 時

二．開催場所：日本医療薬学会会議室

三．出席者

会 頭：安原 真人

副会頭：鈴木 洋史、奥田 真弘

理 事：荒木 博陽、井関 健、大澤 孝、大森 栄、河原 昌美、北田 光一、  
草井 章、佐々木 均、谷川原 祐介、寺田 智祐、宮崎 長一郎、  
山田 清文、山本 康次郎

監 事：山田 安彦

年会長：佐藤 博（第 22 回年会）

代議員選挙管理委員会：森田 真也

陪席者

会計顧問：五十嵐 邦彦

事務局：中澤 一純、松本 とみ恵、星 隆弘

欠席者

理 事：望月 眞弓副会頭、青山 隆夫、川上 純一、山本 信夫

監 事：乾 賢一

年会長：眞野 成康（第 23 回年会）

四．議長：安原 真人

五．会議の成立

定刻において、議長より開会が宣言され、本理事会は理事 16 名の出席があり、定款第 38 条に定める定足数を満たしており、適法に成立している旨が報告された。

六．議事の経過の要領及びその結果

1. 平成 24 年度第 5 回定例理事会の議事録の確認

議長より、本年 10 月 11 日に開催された第 5 回定例理事会(以下、前回理事会という)議事録を基に議事内容の確認が行われた。議事内容の追加・修正等については、本理事会終了時まで指摘するよう要請があった。続いて、資料に基づき、前回理事会開催日から昨日までの会務の状況報告があった。

2. 第 4 回臨時社員総会の議事録の確認

議長より、本年 10 月 28 日の第 22 回日本医療薬学会年会の会期中に開催した第 4 回臨時社員総会の議事録を基に議事内容の確認が行われた。議事内容の追加・修正等については、本

理事会終了時まで指摘するよう要請があった。

### 3. 協議事項

#### (1) 認定薬剤師制度

1) 大森理事より、平成 24 年度の認定薬剤師制度の認定薬剤師、指導薬剤師及び研修施設に係る認定（委嘱）の更新、研修施設の新規認定に係る説明があった。認定薬剤師制度委員会における審議報告を基に協議した結果、全会一致で承認された。

認定薬剤師の更新者：303 名（うち 1 名が条件付き）、指導薬剤師：200 名、研修施設の更新施設：37 施設（更新要件を満たしていない施設：15 施設）。研修施設として新たに認定された施設：12 施設。新規及び更新後の認定（委嘱）期間は 2013 年 1 月 1 日から 5 年間とする。

2) 大森理事より、本年第 4 回定例理事会での協議に続き、認定薬剤師制度規程の改訂案に係る本理事会に対する意見があった。協議した結果、①学術論文の取り扱いについて、医療薬学誌の掲載論文を必須とすることについては了承に至らなかった。また、少なくとも 1 編は筆頭著者の論文とすることについては過去数年間の申請情報を基に筆頭著者となった論文がないケースで認定・委嘱を受けた状況を調査した上で、再度、認定薬剤師制度委員会で議論し、それを受けて本理事会で再協議することとなった。②学会発表の取り扱いについて、日病薬ブロック大会及びそれに相当する地方ブロックの学術大会を認めることとした。

#### (2) がん専門薬剤師認定制度

1) 谷川原理事より、平成 24 年度のがん専門薬剤師の認定試験の合否判定結果と認定に関する説明があった。がん専門薬剤師試験小委員会の判定結果を基に協議した結果、32 名を合格とし、2013 年 1 月 1 日から 5 年間がん専門薬剤師として認定することが全会一致で承認された。

2) 谷川原理事より、がん専門薬剤師養成研修ガイドラインの作成及び公表に係る説明があった。協議した結果、全会一致で承認された。

3) 谷川原理事より、がん専門薬剤師認定事業について、認定や講義研修のみならずがん専門薬剤師認定者へのアフターケアなどを含めたがん領域の薬剤師活動全般を包括的に支援する学術・啓蒙的活動の提案に係る説明があった。協議した結果、全会一致で承認された。

#### (3) 平成 25・26 年度代議員推薦委員会の編成方針

森田代議員選挙管理委員会委員長より平成 25・26 年度代議員選挙の当選者情報が報告された。当該報告を受け、議長より、平成 25・26 年度代議員推薦委員会の編成方針の説明があり、協議した結果、当該選挙結果の公示・確定後に、会頭、副会頭、青山（大学所属）及び宮崎（保険薬局所属）の各理事によって当該委員会を構成し、推薦候補者を選考することが、全会一致で承認された。

#### (4) 非常勤職員用就業規則・給与規則の制定

議長より、25 年度より新規採用する非常勤職員用の就業規則・給与規則の両案についての

説明があった。事務局長が社労士の事前相談を受けた上で策定した非常勤職員用就業・給与の両規則案について、協議した結果、雇用期間の上限等の規定を追記した上で、速やかに社労士に両案のチェックを受けて確定させ、併せて求人に係る作業を進めることが決定された。

#### (5) 英文誌の発行

奥田理事より、継続的に審議されている英文雑誌の発行に係る説明があった。2014年度の創刊を目指し、雑誌のタイトル案とスコープのドラフトの提示と説明があり議論された。協議した結果、今後、奥田、山田(清)、山本(康)の3名の理事が協議して小委員会委員を選任し、その小委員会で英文誌のタイトル及びスコープの決定をはじめ、編集体制・投稿システム、媒体、編集及び事務体制に係る議論とそれに要する経費の調査などを進めることとなり、本理事会でも継続的に審議することとなった。

#### (6) 「学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン」の公募

奥田理事より、日本学術会議薬学委員会の「学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン」の公募に関する説明があった。続いて、議長より、本学会では、会頭及び副会頭が協議した結果、学術団体として積極的学術活動への関与姿勢を示すためにも本公募に応募する方針であることが説明され、既に大規模研究計画・10領域のうち1領域の改称を同委員会委員長に申し入れを行ったこと及び現在申請書類を策定中であることが報告された。本件については異論なく了承された。

#### (7) 後援依頼

議長より、他学会より依頼があった本学会の後援依頼として、日本在宅薬学会からの初依頼となる「第6回日本在宅薬学会学術大会」と、過去に1度後援を許諾したアプライド・セラピューティクス学会が主催する「第4回日本アプライド・セラピューティクス学会学術大会」の後援依頼に係る説明があり、協議の結果、両者共に後援を許諾することが承認された。

#### (8) その他

宮崎理事より、平成25年9月開催の日本薬剤師会学術大会の開催日の初日が本学会の第23回年会と同日になる中で、同学術大会では他学会とのジョイントシンポジウムの開催企画を検討しており、がん領域をテーマとするシンポジウムについては、がん専門薬剤師養成・認定している本学会に参画の意思確認に係る説明があった。谷川原理事より、本学会の年会開催日と重ならないよう留意していただければ積極的に協力する旨の意見が述べられ、協議した結果、正式な依頼があれば受諾することが承認された。

### 4. 報告事項

#### (1) 第22回年会報告

佐藤第22回年会長より、10月27・28日の両日に開催した同年会について、有料参加者数5336名、非会員登壇者93名、懇親会参加者247名、市民公開講座の聴講者180名と盛況で、本学会に対する高い期待度が示されたことなどが報告された。なお、1月中の会計報告を目

指し決算処理をする意向が述べられた。

## (2) 第23回年会準備状況

議長より、来年9月に開催される第23回年会の準備状況について、当該年会のホームページの立ち上げ、公募によるシンポジウムの実施と当該公募の受付期間、共催シンポジウムの募集に係る説明があった。

また、議長が年会長を務める第25回年会をパシフィコ横浜（横浜市）において、会期を平成27年11月21～23日の3日間とする開催計画が報告された。

## (3) 平成25・26年度代議員選挙結果報告

協議事項(3)平成25・26年度代議員推薦委員会の編成方針において報告済。

## (4) 公開シンポジウム（第48回、特別企画）の報告

議長より、本年10月14日（日）開催の特別企画と11月11日（日）開催の第48回公開シンポジウムの開催概要の報告があった。

## (5) 平成25年度学会賞

大森理事より、平成25年度学会賞候補者募集の案内を例年より早めて今年1日より学会ホームページに掲載し、応募受付を開始したことが報告された。

## (6) 委員会報告

### 1) 編集委員会

山本（康）理事より、編集委員会報告として、本理事会で承認された非会員による医療薬学誌への投稿受付を含めた投稿規定の改訂について、25年度中の改訂に向け作業を進めていること。また、投稿数が少なく1号あたり8編を掲載する方針であることが報告された。なお、印刷業者を変更して1年経過するが、著者校正の段階でうまく行っていない部分があり、もうしばらく経過観察をして対応を検討したい旨も報告された。

### 2) 薬物療法専門薬剤師認定制度委員会

河原理事より、薬物療法専門薬剤師研修委員会の報告として、25年11月30日と12月1日の両日、薬物療法専門薬剤師の研修会（講習会）を、長井記念館を会場として開催する計画を立て、そのプログラム編成や単位の認定等に係る企画ならびに薬物療法専門薬剤師研修ガイドラインの策定について協議したことが報告された。

### 3) 認定薬剤師制度委員会

大森理事より、協議事項(1)で議論した事項を除き、所属施設を有しない指導薬剤師更新時の再委嘱について、指導薬剤師の意義を鑑みた場合の妥当性について委員会内で話題に挙げたことが報告され、引き続き委員会で協議の上、理事会に諮りたい旨の報告があった。

### 4) 薬物療法専門薬剤師認定試験に係る協議

大森理事及び山田理事より、次年度より共通化される認定薬剤師試験と薬物療法専門薬剤師認定試験に係る協議について、出題内容・領域、出題方法等に係る協議の報告があった。

(7) 第5回腎臓学会と薬剤師関連学術団体とのCKD対策合同委員会

本学会の代表として出席した大野能之氏の議事録案を基に、同委員会に（他団体の代表として）参加した宮崎理事より報告があった。当該議事録案の内容に疑義があるため、後日、確認することとなった。

(8) 後援依頼

議長より、資料に基づき、本学会に届いた次の後援依頼について、承諾回答した旨の報告があった。

- ・ 「第7回シンポジウム・口腔内崩壊錠等の現状と展望」（依頼者：PLCM(耕薬研究会)）
- ・ 「CPCF Research Grant2014」（ノバルティスファーマ株式会社）

(9) 薬剤師の研修に関する懇談会

議長より、薬剤師研修センターの呼びかけにより、薬剤師の職能・学術団体の代表者ならびに厚労省の関係者が参加し、薬剤師の生涯教育に関する懇談を行った際の報告があった。オール薬学として統一した研修制度の導入についての議論だったが、総論として賛成だが、各論になると各団体が実施している既存の研修制度と仕組みや基準が異なるため、各団体の実務担当者でワーキンググループを作り検討する予定であることなどが報告された。

以上をもって議事の全部の審議及び報告を終了したので、議長は17時00分に閉会を宣言し、解散した。

上記議事概要及びその結果を明確にするため、会頭及び監事は次に記名押印する。

平成 年 月 日

一般社団法人日本医療薬学会

会頭 印

監事 印